近畿大学Ｅ館（KDIX）

デジタル時代における新しい教育環境の創出

建築物概要

■所在地：大阪府東大阪市新上小阪 5-86
■建築主：学校法人近畿大学
■設計者：株式会社 NTT ファシリティーズ
　一級建築士事務所
　五洋建設株式会社大阪支店
　一級建築士事務所
■用　途：学校（大学）

■敷地面積：7,439 ㎡（仮想敷地設定）
■建築面積：3,306 ㎡
■延べ面積：8,702 ㎡
■構　　造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
■階　　数：地上 4 階
■CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.3
■重点評価：CO_2 削減 3.9/みどり・ヒートアイランド 4.0/
　建物の断熱性能 4.5/エネルギー削減 3.9/
　自然エネルギー直接利用 5.0

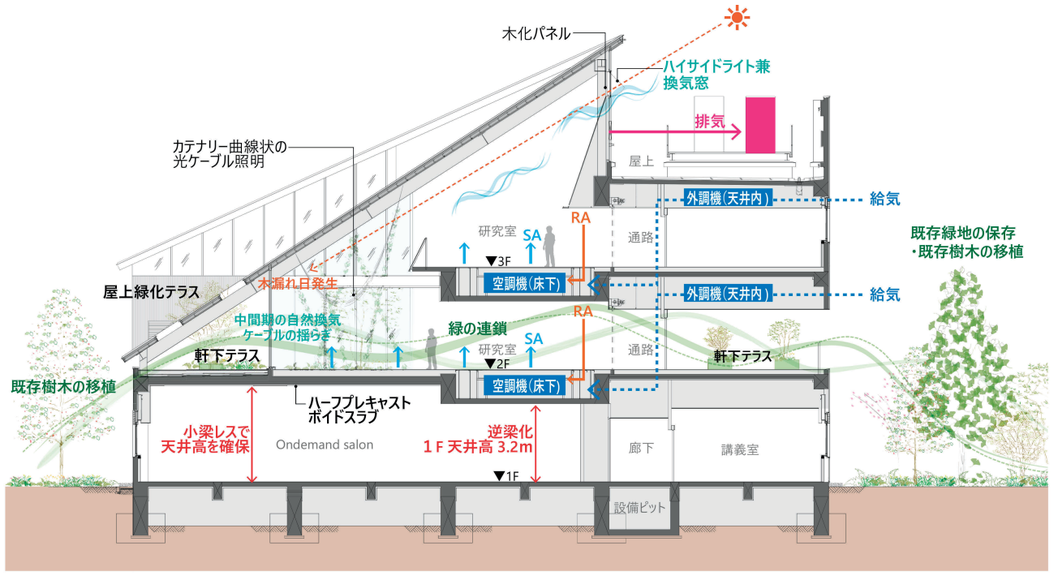
【立地、周辺環境】

都市の中心にあり 2 万人を超える学生が集うキャンパスにある情報学部のための学部棟。元々は広大な緑地であり、キャンパスの北エッジを形成している。用途地域が住居地域であり、高密度に人が行き交い賑わいを形成している街並みである。

【総合的なコンセプト】

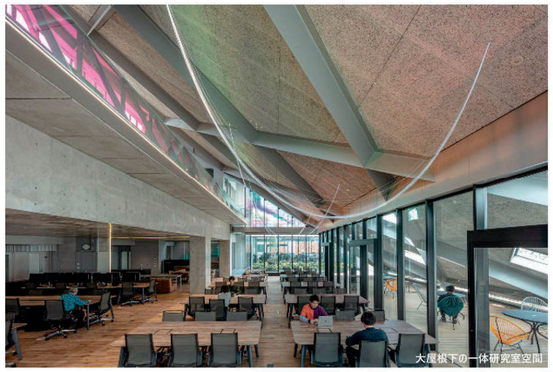
近畿大学 15 番目の学部「情報学部」のための建築。社会の諸課題が多様化・複雑化する中でリアル／デジタル／研究室の垣根を超えるよう多様な情報系学術を学ぶ 330 人と教員の日々の活動を混在させることで新結合を生み出す拠点づくりを掲げた。デバイス携帯によりいつでもどこでも繋がることができる時代において時間と空間を共にする教育環境の意義を再定義するため、様々な活動・時間軸を持つ人の心地よい同在を実現する「空間」のデザインに取り組んだ。東西 95m の長さを持つこの一体空間には緑量豊かに立ち上がる 3 つのテラスが挿入され光・風・緑など自然要素を内部空間へ取り込むことで壁のない大空間を心地よいスケールに柔らかく分節している。

建物断面構成図

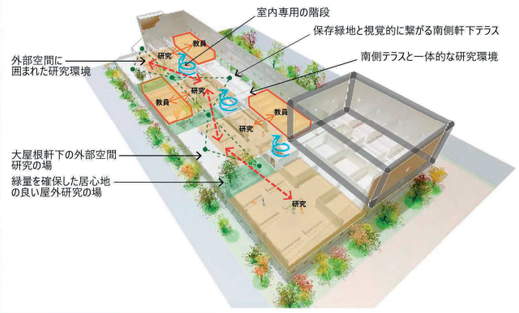


環境配慮事項とねらい

一体空間 × 自然　研究室の垣根を取り払ったプラットフォームを創出


大屋根下の一体研究室空間

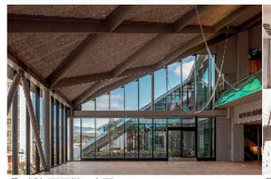
一体研究室空間のダイアグラム

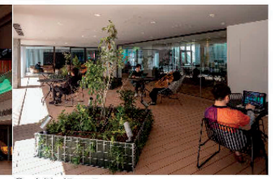


屋上緑化テラスと勾配屋根
・３つのテラスにより採光・通風の室内への取り込み
・北側に面した大空間に明るく様々な場所性を創出
・どこからでも緑が眺められる平面計画

一体空間全体での環境施策
・勾配屋根の一体空間形状を利用した重力換気
・タスク空調による省エネの取組み
・逆梁を利用した床下空調機設置

既存緑地の保存、 緑の連続
・最大限の緑地を残した配棟計画
・全高木の移植、 植栽適正を考慮した再移植
・樹冠の連続、 2 階レベルでの緑の連鎖

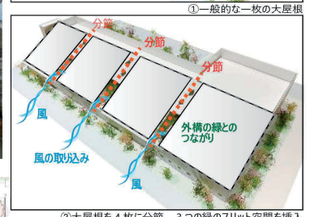

①_ 緩勾配屋根下空間


②_ 南側の軒下テラス

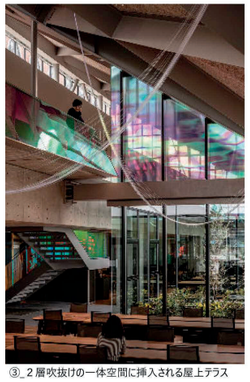
①一般的な一枚の大屋根

④_ 急勾配屋根下テラスに什器を置き、 活動空間

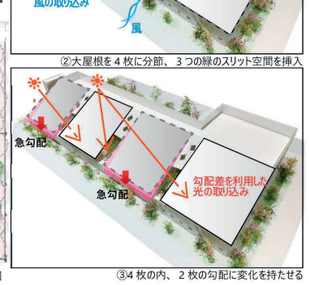
⑤_ 北側屋外テラス 緑化ワイヤーにより立体ランドスケープ化



②大屋根を 4 枚に分節、 3 つの緑のスリット空間を挿入


③_ 2 層吹抜けの一体空間に挿入される屋上テラス

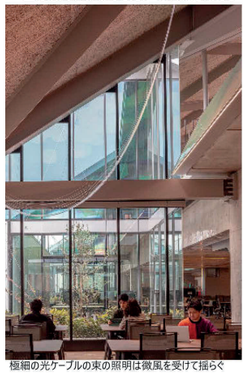
2 階平面図兼外構配置図



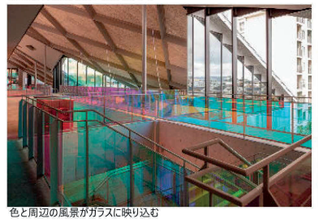
③4 枚の内、 2 枚の勾配に変化を持たせる

自然の機微のビジュアライズ　環境教育と環境配慮への関心の促進

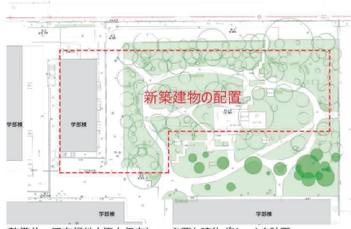
採光や通風の取り組みを視覚化
・ハイサイドライトの光を木粒子充填パネルを透過
　させることにより木漏れ日を室内に出現
・重力換気の微風による光ケーブル照明のゆらぎ


極細の光ケーブルの束の照明は微風を受けて揺らぐ

採光は色に還元されて室内を彩る


色と周辺の風景がガラスに映り込む

既存緑地の保存と再移植　記憶の継承、 BYOD 時代における外部空間の整備



整備前：既存緑地を極力保存しつつ必要な建物ボリュームを計画。
●残置した高木　○仮移植した高木

高木移植前の庭園

残置高木と再移植高木

木陰の創出、 オンライン授業などでの空間活用

既存樹木（手前）を極力保存した建物配置